

おもしろい算数

北海道算数数学教育会
小学校部会 札幌支部
平成 21 (2009) 年 9 月 29 日発行
No. 146

いつまでも価値のあるものを身に付けさせたい

北数教札幌支部副支部長
札幌市立北白石小学校長 大江 則夫

社会で求められている人材

「ソクラテスの人事」という NHK の番組をご存知でしょうか。この番組は、現在の先端企業の人事担当者が実際に面接試験で出題する問題を出し、その解答によって採用するかどうかの合否を判断するという番組です。例えば『富士山を動かすには?』『ジェット機の重さを、秤を使わずにどう量る?』といった問題から、正解を求めるのではなく発想力を競い合って「本当の頭の良さや人間の価値とは何か [地頭] (じあたま) を考える番組」(HPが)です。今、社会ではどのような人材が求められているのかが見えてくるように思います。

厚生労働省 2004 年の調査「明日のものづくりを支える人材の育成」によると、各企業では、次のような人材や能力を求めていることが分かります。製造部門では多能工化(様々な工程に対応できる柔軟な考え方)、段取り能力、作業手順や方法の立案能力(思考力)、品質管理に関する能力や知識。開発部門では、発想力、創造力、提案力、市場のニーズを捉える能力、他部門と連携する力。営業部門では、新しい顧客を開拓する能力、顧客のニーズを聞き出す能力。また、リーダーシップのある人材、自ら考えて実践できる自立した人材、市場ニーズや顧客のことを考えた様々な提案ができる人材等があげられています。

一方、私の身の回りを見渡してみると、今の子供たちがこれからの社会で生きていくのに必要な能力はまだまだあるようです。おしゃべり力(話題を自由に広げ発展させて、人間関係を作っていく)、自宅の近所にある八百屋のご主人は、まさにこのタイプです。もちろん野菜や果物に関する知識やお客のニーズをとらえる能力は抜群です。相手を思いや

る力(優しさと厳しさのバランスをとって)高齢者介護施設の職員の対応には頭が下がります。

算数で育てたい力

これら社会で求められている能力を算数で育てたい力に一步近づけて考えてみると、「発想力」多様な考えを柔軟に生み出す力(受け入れる)、「相手の立場に立つ力」自分の考えを分かりやすく伝える力、「調整力」幾つかの考えから相違点や共通点、似ている点等を見抜いて自分の考えを説明提案する力、「人間関係力」相手の考えを引き出す(うなずき、返事、姿勢)、「自立力」肯定的(批判的)見方ができる力、といった力の育成が望まれていると考えられます。

北数教札幌支部では、子供に身に付けさせたい力として、観点1「考える力を鍛える」、観点2「表現する力を鍛える」の二つをあげています。学習指導要領の算数の目標を目指すことは言うまでもありませんが、支部研究の2つの観点に社会で求められている力を考えあわせることも十分可能かと思えます。

昭和14年、慶応義塾大学に工学部ができたとき、実業界からすぐに役立つ人材を…という声が届いたそうです。すると初代工学部長の谷村豊太郎は、「すぐに役立つ人間は、すぐに役立たなくなる。いつまでも価値のあるものを身に付けさせるのが教育の根本です」と言ったそうです。算数の授業で目指すところは、まさに「いつまでも価値のあるものを身に付けさせる」ことにあります。

11月には支部研究大会が予定されています。今後も、日常実践を大切に交流を続けていきたいと思えます。